

霊 聲

れ い せ い

2009年5月 (第174号)

北米ホーリネス教団
OMS Holiness Church of North America
www.omsholiness.org
reisei@omsholiness.org

御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。(コリント第一の手紙2章13節)

聖霊を受けよ

島田 直

(サンロレンゾ)

キリスト教会 牧師

主は私たちに、また教会、教団に何を期待しているのだろうか。

私たちの信仰の歩みも、また教会も油断すると惰性的になり、活力を失った、死んだような状態に陥る危険性がある。私たちは絶えず、主の御旨を求め、行うことのできる教会、教団でありたい。主の御旨に従って歩む時に、主が必ず、必要な力を与えてくださり、そしてその教会、教団を豊かに祝福してくださると私は確信する。

復活なさった主イエスが開口一番、弟子たちに語った言



知子夫人と共に

葉は「聖霊を受けよ」(ヨハネ二十章22節)であった。そして昇天なさる前に語ったことは「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」(使徒行伝一章4-5節)であった。すなわち、主イエスの命令は「聖霊を受けよ」であり、聖霊に満たされて歩むこと、宣教すること、を望んでおられるのである。

私たちの教会、教団も聖霊

に満たされた初代教会の弟子たちの歩みに倣って歩むものでありたい。初代教会は五つの特徴を有していた。

一 主の御言葉に

固く立った教会

初代教会の人々は復活の主の約束の言葉をただ信じ、祈り待ち望んだ教会であった。私たちには今、聖書が与えられている。聖書は神の言葉であり、信仰の唯一の規範である。御言葉を軽んじる教会は世俗主義に陥り、主の御旨に反する教会へとなっていく。アメリカでは同性愛者の聖職者を認めている教団が多くなってきた。アメリカの国自体も同性愛者の結婚を容認する方向に傾いている。時代がどう変わるうが、私たちは聖書がどう語っているかをいつも確認しながら、主の御言葉に固く立っていく教団でありたい。講壇においても主から知恵を頂きながら、しっかりと御言葉を大胆に語っていきたい。

二 熱心に祈る教会

初代教会は熱心に祈る教会である。「心を合わせて、ひたすら祈をしていた」(使徒行伝一章14節)とある。以前はよくホーリネス教団は熱心に祈る教会として紹介された。現在はどうかであろうか。祈りは主から与えられたクリスチャンの特権であり、恵みである。祈らないクリスチャン、教会は実に損をしている。アメリカでは祈禱会が行われている教会は稀である。そこには「祈らなくてもどうにかなる」という霊的高慢が見え隠れしている。祈らないとは神の助けを必要としないことである。私たちが教団はへりくだって、熱心に祈る教団でありたい。そして祈禱会を大切にし、心を合わせて、ひたすら祈る教団でありたい。

三 聖霊を待ち望み

聖霊に満たされた教会

初代教会は聖霊を待ち望み、そして聖霊に満たされた教会であった。主イエスの弟子たちに對しての命令は「聖霊を

受けよ」であった。聖霊の満たし無しでは生きた信仰生活、そして教会形成はできない。弟子たちは主の言葉を信じて、聖霊の満たしを待ち望み十日間も祈り続けたのである。主イエスは求める者に対して聖霊を与えると約束なさった。私たちはその御言葉を信じて、祈り求めるのである。聖霊はへりくだって熱心に求める者に与えられる。ペテロは聖霊を受けて、全く変えられ、主の器とされ、大いに用いられた。私たちも聖霊に満たされると同じように変えられ、主の器とされる。

四 信徒の交わりを

大切にする教会

初代教会は信徒の交わりを大切にすた。「そして、一同はひたすら、使徒たちの教えを守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた。」(使徒行伝二章42節)とあるように、初代教会は共に集まることを重んじ、聖餐を行ない、交わりをした。交わりの希薄な教会はやや

もすると居心地が悪く、冷たい印象を与える。聖餐は主の愛と赦しの象徴である。愛と赦しが伴う交わりには平安があり、人をホッとさせる力がある。そこに喜びが生まれる。ホッとする教会、喜びに満ちた教会には人が自然と集まる。教会には個性の違う老若男女が集まっている。しかし、私たちは神の家族であることを覚え、お互いに受け入れ合い、赦し合い、認め合っていくべきである。そうすれば人々は教会で、自分の居場所を見つけ、安らぎを得、安心するのである。そして聖霊はそういう交わりの中で働かれ、人を主の器として用いてくださる。

五 大胆に宣教する教会

初代教会は大胆に宣教する教会であった。教会の大きな目的の一つは宣教である。宣教とは主イエスの十字架と復活による救いを宣べ伝えることである。ペテロは「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれに

も与えられていないからである」(使徒行伝四章12節)とはつきりと語っている。また主イエスは「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤ全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となるであろう」(使徒行伝一章8節)と言われた。私たちが聖霊に満たされると私たちはキリストの証人とされる。そして教会が聖霊に満たされるとキリストの香りが放たれ、道しない教会はいつかは廃れていく。なぜなら、そこに聖霊が働かないからである。聖霊が臨在するところに宣教の業がなされる。

「聖霊を受けよ」と言われた主イエスは今も私たちに同じことを言われている。私たちの教団は絶えず聖霊に満たされ、御言葉を重んじ、熱心に祈り、主に在る交わりをなし、そして大胆に主イエスの十字架と復活による救いを宣べ伝えていく教団でありたい。

修養会へのお招き

今年で、修養会は七〇周年の記念の年を迎えます。

SHUYOKAI と

いう言葉が、英語でも北米ホーリネス教団に浸透していることに、初めてこの地に来た時、驚きま

た。江戸時代においては、「修養」という言葉は、常に「死」と隣り合わせの武士階級のみならず、一般民衆にも大きく広まっていたと言われています。人々の心の拠り所として、「修養」という言葉が理解されてきたようです。

しかし、私たちの「修養会」は、心のよりどころ以上の意味があります。御言葉の恵みを頂き、養われる場であるだけでなく、受けた御言葉をしっかりと自分自身に刻み、応答の祈りによって今の自分から、新しい自分への再出発の決断へと導いていただく場所でもあります。

今年、主題「あなたを変え、**ホーリネスの力**」と題して、日本からインマヌエル教団

高津キリスト教会の藤本満先生をお招きいたします。

今年もサンタバーバラの避暑地で、神様の細き御声を頂くことによって、新たな決断をし、聖霊の満たしによって、霊肉共にリフレッシュされま

すように。近年、親子での参加者が増えていることは、この修養会の将来的な展望を大いに期待できる素晴らしいことだと思います。お一人びとりの祈りが、これまでの七〇回の修養会を支えてきました。今年はその記念すべき年。教団、教会、年齢を越えて、同じ主を見あげる全ての者が、御言葉の力と豊かな恵みを頂く修養会となるようにと願っております。

二〇〇九年修養会委員会主事

中尾 善之介



サンタバーバラ修養会にお招きくださり、大変光栄に思います。私はインマヌエル高津教会（川崎市）の牧師をしています。神学校や大学でも教えています。今年の冬には東京聖書学院にもうかがいます。

私は大学卒業後、ケンタッキーにある神学校で学び、その後ニュージャーシーの大学院に行きました。二人の子どもたちはアメリカで生まれました。卒業後、今の教会に赴任し、一三年目になります。

五年前、娘がロスの大卒に行くようになり、この五月に卒業します。ただそれだけのきっかけで、世界中でロスのことが一番気になるようになりました。

不思議なもので、人は小さなきっかけで、遠くにあつたものが突如身近に感じるようになります。私は皆様とその教会をおたずねしたことがありません。でも、この修養会で奉仕をさせていただくことで、一生忘れることのない交わりを主は与えてくださると信じています。私たちにとっての主は、「緑の牧場」「憩いの水のほとり」「死の影の谷」「敵の前」、つまり人生の山坂を、いつも共に歩んでくださり、行く手を導き、慰め助けてくださる方です。この方の真実は私たちの「いのちの日の限り」変わることがないことを実感します。

大学三年生の夏、はじめてアメリカの地を踏んだ日のことを昨日のように思い出します。不安で押しつぶされるような夜でした。振り返ると、主はそのような日も、そして今に至るまでいつも共にいてくださいました。

サンタバーバラ夏期修養会 講師

藤本満牧師

圭子夫人



北米日系人社会に貢献した人々

オレンジ郡教会 牧師 杉村 宰

今回からは、このアメリカの地にあつて日本人クリスチャンとして日系人社会に貢献し活躍した人物を紹介しよう。

アメリカ日系人社会草創期に突出した働きをした人物であり、ジャーナリスト、農業経営者、人材管理者、財政スペシャリストとして多くのタレントを持ち、しかもアメリカ日系社会の霊的リーダーとして、キリスト教界の重鎮の人でもあつた人物に安孫子久太郎（あびこ・きゆうたろう）がいる。これらの一連のリーダーシップから彼は「移民の指導者」と仰がれた人物である。

安孫子は一八六五年に新潟県に生まれた。中江兆民の私塾に通つたという勉強家であつた。十七歳で横浜に上り、翌年魚町キリスト教会で洗礼を受ける。二〇歳の時にサンフランシスコに渡るが、彼は在米日系人に奉仕することが自分の天命と期していた。

渡米直後、福音会に所属する。これは北米の日系人社会では最初

の組織団体となつたものであり、安孫子はその「福音会」の会長でもあつた。これは一八七七年に中国人伝道館の一室を借りて三五名からなる集会を始めるに至つたものである。何せ日本人唯一の団体であつたので、当時の日系人社会においては種々な方面にわたつて奉仕活動をした。特に日本から来る「書生」と呼ばれた留学生たちの生活の下々にわたる斡旋活動をした。そしてこれが今日の在米日系キリスト教会の足がかりとなつたのである。

安孫子は、はじめスクールボーイで小学校に通い英語を習得した。その後、友人と一緒に購入した新聞社を立て直し、『日米新聞』を立ち上げたのだつた。それはアメリカで最も購読者が多く、二万五千部にもなつた。その紙上で彼はアメリカには出稼ぎではなく、永住するように説き、一世達の無知から来る様々な問題のために、この国の文化を学ぶことの大切さを教え、意識改革の必要を叫び、日本



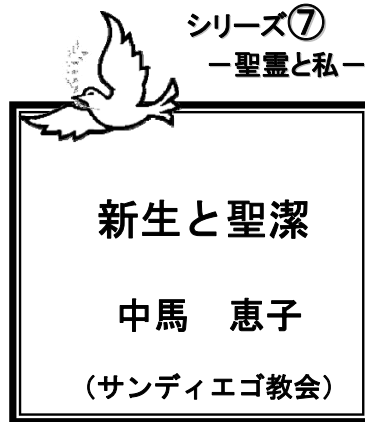
人はアメリカ社会に貢献しているのだということを訴えたのだつた。やがて一九二四年に排日移民法が成立することによって、安孫子は日本の弱腰を批難し、同時に排日の急先鋒であるカリフォルニア州連合移民委員会の書記長をしていたV・S・マクラッチャーと会談を重ねている。その彼の言である、「あなたが、カリフォルニア州における日本人の思想上の指導者の位置にあることを了解するがゆえに」と断っているが、安孫子は一步も引かずに応じている。同時に反軍国主義者として日本本国とも、在米の日本人会とも一線を画していた。

彼はまた実業家として、『日米勸業社』を立ち上げ、日本から職を求めて来る人々のために仕事の斡旋をした。さらには『日米金融社』を立ち上げ、ローンの便宜を図り、アメリカ社会に受け入れられる日系人農業のひな型ともいうべきユ

ートピアを創設するために、自らフレスノ北部に位置するリビングストンに『大和コロニー』を設立し、二五〇〇エーカーにも及ぶ土地を購入している。他に二カ所の近郊の社会に貢献している。

安孫子は一九三六年に没しているが、彼の妻が新聞経営を継続し、日米戦争が始まって収容所に入れられる一九四二年まで続けられた。彼の妻は、黒田清隆の斡旋によつてアメリカに留学した最初の女子留学生の一人である津田梅子の妹、津田余奈子であり、一九〇九年に結婚している。彼女は学習院を出た後、女子英学塾に学んだ。彼女の英語がそのままアメリカ人に通じたという。姉の創設した津田塾を助けるために日本で暮らす日々が多く、二人の間に多くの書簡が残されている。彼女は当時の厳格なクリスチャンの信仰そのままに、キリスト矯風会の一員としての信仰を維持し続けたのであつた。

安孫子の信仰生活の背後には妻余奈子の献身的な働きがあつたに違いない。心を合わせて主に仕えた二人の日系社会の草創期の様子が目に見えるようで、何か微笑ましいではないか。



新生と聖潔

中馬 恵子

(サンディエゴ教会)

私が初めて加州コロナドに来たのは一九六二年でした。数カ月後、現在のサンディエゴ教会に知人の紹介で導かれました。

当時は、常石先生が英語部で八尋先生が日語部でした。出席者はほとんどが御高齢の一世の方たちで、若い私たち家族を子供のように可愛がってくださったことを忘れることができません。

そのような時、ある新興宗教の人たちが私をクリスチャンと知って、大勢で私をつるし上げにしキリスト教への批判を浴びせました。入信間もない私は、返答することもなく泣いてしまいました。その時「愚かで無知な論争はやめなさい」という神様のお声を聴き、その通りに御言葉を語ると、ピタリとぎわめきが止まったのでその場

から逃げることができました。

帰宅してから、彼らから一つ一つ浴びせられた言葉を思い出し、私は何も答えられない名ばかりのクリスチャンであること、また今まで自分中心の生活をしていたことを知らずにいた罪深さを示され、祈りをしました。その時から、私の信仰生活は全く変わり、聖書を読むのが楽しくなり、祈禱会に出席し、伝道に励み、何かに押し出される力を感じるようになりました。

長男を出産後、四年ぶりに主人の日本勤務のため帰国し、一九七〇年に再び懐かしいサンディエゴに戻って来ました。その後月日たちが、多くのクリスチャンは、キリストを救い主と信じ義とされ罪が赦されることのみ留まって、



さらに聖別され聖潔(きよめ)てくださるといふ恵みにあずかっていないことを示され、「わたしが聖なるものであるから、あなたがたも聖なる者になるべきである。」との御言葉のごとく、聖潔を求めるようになりました。

今までの私は、「私のための十字架」で止まっていました。私も主と共に十字架につけられました。信仰告白をするようになり、「全てを主に捧げてあなたにお従いしていきます。御心の中を歩ませてください。私は主の手の中の粘土です。どうぞ練りきよめて、主の望まれる百パーセントの中馬恵子という作品に作り変えてください。また私の知意すべてをコントロールしてください。」と祈りました。一九七七年七月一七日、サンタバーバラの修養会に導かれました。その時、牧師より聖潔の確信の祈りをしていただき「イエス・キリストの血すべての罪から私たちをきよめるのである。」また「私はキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや私ではない。キリストが私の内に生きておられるのである。」との御言葉を信

じ、原罪の赦しと主の内住を信じ感謝にあふれて帰宅いたしました。その後、まず心に真の平安と自由が与えられ「自分のために生きるのではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きる」との献身を新たにさせられました。その後、脳腫瘍の手術や一年の命ですと宣告された大腸がんの時も、奇跡的に癒され平安のうちに守られたことを、またがん患者の方たちへの伝道の道を開いてくださったことも、心から主に感謝しております。

主人が十年前に急に召されたことは、大きな試練でしたが、イザヤ書四一章十節のごとくに、いつも主の勝利の右の手に私は握り締められている幸を思い、平安のうちに感謝の日々を過ごさせていただいております。

二人の子供たちも神様に捧げることができ、息子は牧師に、娘は牧師の妻として主の御用に励んでおります。

「わたしとわたしの家とは、共に主に仕えます。」

ハレルヤ 主を賛美します。

教団ニュース

■ 二〇〇九年教団総会

七月一〇日(金)～十一日(土)

正教師会 七月九日(木)

会場・サンロレンゾ教会

■ サンタババーバラ夏期修養会

七月一日(水)～四日(土)

講師 藤本満師

主題「あなたを変えろ

ホーリネスの力」

主題聖句「キリストに結ばれて

歩みなさい」

(コロサイ2章6節 新共同訳)

登録期間 四月十九日～六月七日

■ ハワイ聖会

六月二七日(土)～二八日(日)

講師 溝口俊治師

主題「あなたを変えろ

ホーリネスの力」

主題聖句「どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊によって、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。」(エペソ3章6節)

教会ニュース

■ ホノルル教会は。現在会堂増

改築プロジェクト進行中です。

近隣住民の同意が得られて、

工事に着工できるようにお祈

りください。

■ サンロレンゾ教会

七月十一日(土)教団総会終了

後の午後四時半から、同教会を

会場に創立八十周年を祝いま

す。(多くの方のご出席を願っ

ています。)

■ ロサンゼルス教会は、駐車場

拡張のために、隣接地購入を

祈っています。予算は四〇万

ドルです。この拡張は一人の

魂の救いのため、伝道をする

教会となるための一環です。

お祈りください。

■ サンタクララ教会ではサン

デースクール・クラスルーム

と駐車場の不足を解消するた

めに五月一日より隣接するオ

フィスの一部屋を借りること

になりました。サンタクララ

教会は五月八日と九日に教団
常務委員会を迎えますが、こ
の部屋を最初に使うのが教団
常務委員会になるかもしれま
せん。私たちの祈りはこのオ
フィス全体を購入することで、
教会堂のリモデルなどについ
て話し合いの時を持っています。

消息

■ 中村裕二牧師(ウエストオア
フ教会) 三月五日直腸がんの
手術を受けられました。現在
自宅で療養中です。

■ 鍵和田哲男牧師(サンファナ
ンド教会) この八月でサンフ
アナンド教会を辞任されるこ
とになりました。

■ 井下泰文牧師(ホノルル教会
出身) 三月に東京聖書学院を
卒業し、四月より神奈川県ひ
ばりが丘教会に任命されまし
た。

編集室から

▼最近ホノルルで美味しいラー
メン屋を見つけた。無化調といっ
て、ノーMSGのスープで勝負して
いる。私もその親方の心意気に感
じて、宣伝応援している。▼福音
も混ざりけをなくし、純粹な福音
んで勝負しなければならないと、
ラーメンをすすりながら思った。
▼また修養会の時期がやってきた。
恵みの大雨を期待し、講師の藤本
師のためにも祈って備えていこう。

教団所属教会

(カリフォルニア)

フリーモント教会
サンロレンゾ教会
サンタクララバレー教会
ウォルナツツクリーク教会
ロサンゼルス教会
サンファナンド教会
サウスベイ教会
ウエストコビナ教会
ウエストロサンゼルス教会
オレンジ郡教会
アーバイン伝道所
ホイットピア教会
サンディエゴ教会
ノースカウンティ教会

(ハワイ)

ホノルル教会
ウエストオアフ教会
ミリラニ教会

(アリゾナ)

ツーソン教会

(詳しくは www.omsholiness.org
を参照)